

全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（3年）

今年度の分析

全体の概要			
国語	正答率は全体的に県平均をやや下回っている。書くことや表現に関するものの誤答が多い。漢字の知識は県平均とほぼ同じであるが、文法や文学作品名は誤答、無回答が多い。文章を書く問題は無回答率も高く、苦手になっている生徒が多い。		
分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項	
聞く	正答率は県平均を大きく下回っている。要点をつかみ、状況に合わせて適切な表現を考えてまとめることが苦手な生徒が多い。	➡	「話すこと・聞くこと」に関する活動を授業やテストに更に取り入れ、話の要点をまとめる力や、分かりやすい文章を作り上げ相手に伝える力を身につけさせる。
書く	正答率は県平均を大きく下回っている。無回答率が高いものもあり、自分で考えて文章を書くことを苦手としている生徒が多い。	➡	作文や内容をまとめる等の「書く」活動を増やし書く経験を重ねることで、文章を書くことの苦手意識や抵抗感をなくすように取り組む。言葉の意味など言語事項も合わせて確認し、表現力を高めるようにする。
読む	正答率は県平均を大きく下回っている。文章を読み内容を理解することや、背景や心情を想像することを苦手としている生徒が多い。	➡	文章を読む機会を多く作り、文章を読むことに慣れることで読むことへの苦手意識をなくすようにする。また、作家や作品に触れることで、読書への関心を持たせるようにしたい。
言語事項	正答率は県平均とほぼ同じとなっている。漢字の書き取りに関しては県平均をわずかに上回っている。文法に関しては正答率も低く、苦手になっている生徒が多い。	➡	毎日の漢字の課題や授業での漢字の小テストを引き続き行い、語彙力のさらなる向上を図る。文法や文学作品については授業の中で復習し、定着を図りたい。

全体の概要			
数学	全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。観点別に県平均と比較するとほぼ同程度である。全ての内容・領域においても県平均とほぼ同じであり、教科全体の到達度別平均正答率をみても、県平均と同程度である。また、意識調査では、数学に関する質問では、県平均を大きく上回るかやや上回っており、数学に対する興味・関心が高いことが解る。また、正答率においては、2年生の時期よりやや上回っている。		
分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項	
知識・理解	知識・理解の正答率は、県平均とほぼ同じである。全ての内容・領域（数と式、図形、関数、資料の活用）においてもほぼ、県平均と同じであり、教科全体の到達度別平均正答率も、県平均と同程度である。	➡	意識調査によると、「数学の勉強は好きだ」の項目では、県平均を大きく上回っている。また、「数学の授業の授業は大切だ」の項目ではやや上回っており、生徒全体の数学における学習意欲は高いことがわかる。そのことを生かして、授業法や課題の出し方にさらなる工夫を加えることと、教科内での指導者の研鑽を積むことで、知識・理解のさらなる向上を目指したい。
技能	技能の正答率は、県平均ほぼ同じである。全ての内容・領域（数と式、図形、関数、資料の活用）においてもほぼ、県平均と同じであり、教科全体の到達度別平均正答率も、県平均と同程度である。	➡	意識調査によると、「数学の勉強は好きだ」の項目では、県平均を大きく上回っている。また、「数学の授業の授業はよくわかる」の項目ではやや上回っており、生徒全体の数学における学習意欲は高いことがわかる。そのことを生かして、問題集や補充プリントを活用し、数多くの問題に挑戦させることで、技能のさらなる向上を目指したい。
考え方・見方	見方や考え方の正答率は、県平均ほぼ同じである。全ての内容・領域（数と式、図形、関数、資料の活用）においてもほぼ、県平均と同じであり、教科全体の到達度別平均正答率も、県平均と同程度である。	➡	意識調査によると、「数学の問題の解き方が解らないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」の項目では、県平均を大きく上回っている。また、「数学ができるようになりたい」の項目ではやや上回っており、生徒全体をみると諦めずに向上心をもって取り組んでいるようだ。そのことを生かして、授業中の発問や学習形態を工夫することで、見方や考え方のさらなる向上を目指したい。

全体の概要	
理科	全体の正答率は、県平均とほぼ同じである。内容・領域別見た場合も県平均とほぼ同じである。観点別で見た場合は、「技能」が他の観点より県平均を下回っている。到達度から見ると、「十分」「おおむね」が合わせて9問、「要努力」が9問となっており、教科全体でも要努力の生徒の割合が県よりも多くなっている。授業のまとめの再確認や確認テストで「要努力」の割合を減らしたい。

分析結果・課題把握	
思考・表現	雲のでき方や電磁誘導などについての説明を考える問題の正答率が非常に低くなっている。実験結果を考えて、説明・表現することができていないようである。
技能	技能を問う2問とも県平均を大きく下回っている。要努力の判定である。理解している事柄を、的確に利用することができていないようである。
知識・理解	全体的には、県平均をやや下回る正答率となっている。この領域の5問の設定が全て「おおむね達成」の領域である。

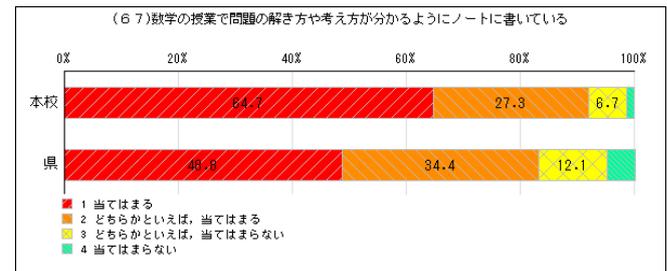
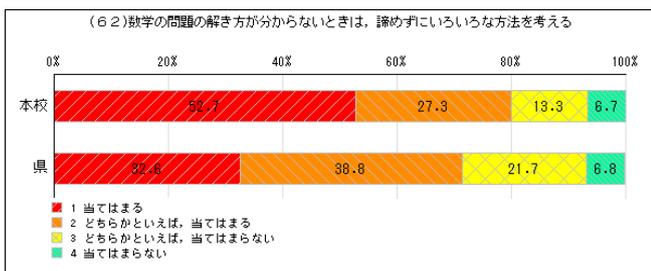
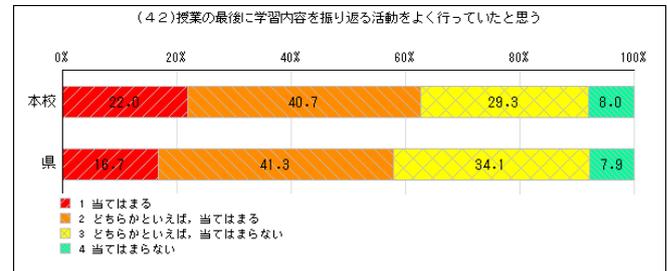
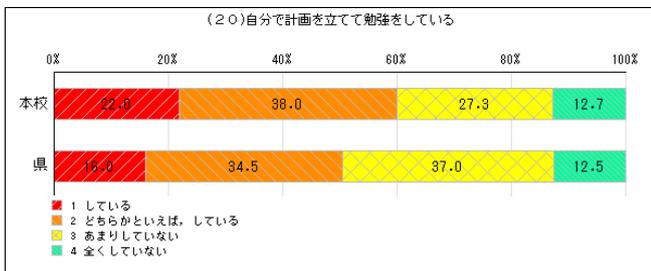
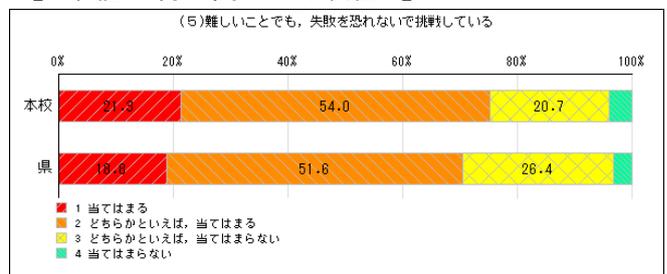


改善に向けた具体的取り組み事項	
実験結果や現象に対する思考を習慣化させ、考えたことを表現する取り組みを増やして、思考→表現を繰り返し取り組ませる。	
実験・観察に対しては積極的に取り組む生徒が見られるが、班の人数を調節することで、実際に実験・操作をする機会を増やしたい。また、実験や観察の操作や結果についてのつながりをイメージをさせてまとめさせたい。	
「おおむね達成」の領域ではあるが、確認テストなどを入れて、学習内容のまとめと定着をさせたい。あと少しで「十分」の領域に入るものがあるので、反復の練習で割合を高めたい。	

全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（3年）

分析と改善に向けた具体的取り組み事項	
勉強に関する取り組みは、受験生であるという意識が高まっているからだと考える。 人の為に役に立ちたいという思いは多くの生徒がもっている。 やらなくてはいけない事が明確だと、そのことに対して一生懸命懸命に取り組むことができる。 教師の有る指導の仕方では生徒達のやる気や取り組む態度が変わると思われる。 明確な課題と見通しをもった支持・支援を行うように努める。	

【 数値が特に高かった項目 】



分析と改善に向けた具体的取り組み事項

テレビ等を見る時間や、テレビゲーム関係をする時間が多いの、個人が所有をしているし、個人で遊ぶ事ができるからだと思われる。

ゲームを通して人間関係を気づいていることも考えられる。

図書館を利用しない生徒が多いのは、図書館に行く時間がなかったり、遊んでいるからだとかんがえられる。

読書が好きだと答えている生徒はパーセント的には多いが、読んでいる本の内容に疑問がある。

読むこと・書くことが苦手な生徒が多いので、克服する為に授業中だけに限らず読書など 口癖から推進している。

【 数値が特に低かった項目 】

